

編集業務支援 AI システム「D-ai」 東奥日報社が導入

～「記者による記者のための AI」 質の高い報道と編集業務 DX を加速～

株式会社北海道新聞社(本社:札幌市、代表取締役社長:堀井友二、以下「北海道新聞社」)が自社開発した編集業務支援 AI システム「D-ai(ディーアイ)」が、株式会社東奥日報社(本社:青森市、代表取締役社長:田中徹、以下「東奥日報社」)に導入されたことをお知らせします。

「D-ai」は、入力したデータが外部の AI 学習に利用されないセキュアな環境と高い拡張性を備えており、北海道新聞社編集局の記者らが編集現場のニーズを基に開発していることが特徴です。北海道新聞社では 2025 年 6 月から運用を開始しており、東奥日報社への「D-ai」の導入は、26年6月に導入した宮崎日日新聞社(宮崎市)に続いて2例目となります。

■導入の背景と目的:質の高い報道と業務効率化の両立

東奥日報社は、これまで培ってきた正確で質の高い報道体制を維持しつつ、さらなる信頼性の向上と業務効率化を両立させるための「デジタル変革(DX)」を推進しています。

北海道新聞社も同様の理念の下、生成 AI 技術を活用した業務効率化と働き方改革を目指して「D-ai」を開発・導入してきました。今回、両社の経営戦略が合致し、編集現場が真に必要なとする AI サービスとして「D-ai」の導入が決定しました。

■「D-ai」の特徴:現場感覚で磨き上げた「記者のための AI」

「D-ai」は、北海道新聞社編集局の AI 開発・コンサルチーム「D-ai Studio」が、取材・執筆・編集を担う記者の要望を直接反映させて開発したシステムです。

1. 現場ニーズに即した「アジャイル開発」

開発チームが現場と伴走し、日々変化するニュース制作のニーズに合わせて機能を柔軟にアップデートします。これにより、実際の編集業務に即した利便性を実現しています。導入企業の要望に応じた新たな AI アシスタントの開発も可能です。

2. 報道倫理を守る「セキュアな環境」

最新の大規模言語モデル(LLM)と API で連携しながらも、入力情報が学習データに利用されない安全な環境を構築し、機密情報の漏えいを徹底的に防ぎます。

3. リテラシー教育からスキル習得まで「人材育成支援」

システム提供にとどまらず、AI の仕組みやリスクを学ぶリテラシー教育や、記者が安心して AI を使いこなし、自らの能力を最大限に発揮できる体制づくりをサポートします。

4. 蓄積した AI 知見を各社で共有

導入各社で蓄積される AI の知見を共有し、AI 時代の新聞業界をリードする体制を築いていきます。